

プログラム紹介

A コース: オークヴィレッジ / 森林たくみ塾

場所 : 岐阜県高山市清見町

日時 : 2009年7月25日 ~ 28日

■講座のねらい

- 17期生：「前期講座で自分たちが得たもの、学んだもの」を、18期生に「自分の言葉として」いかに伝えられるか。
18期生：環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「体験を腑に落とす」。

■講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、人の環＝人を束ねる仕掛け（ネットワーク）づくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

■そのために大切にしたいこと

森での実践的な活動を主軸とする。
森づくり活動には、森を面白がる視点も重要。
体を使って実体験する。（頭でっかちにならない！）
何事もやってみる。（やらなきゃ何も進まない！）

■プログラム進行表

=====
1日目 7月25日(土) 出会い、再開 ~環を広げる
=====

14:00 受付開始

15:00 開講式 / オリエンテーション

18期生 -----

15:30 実技「森づくり導入編」まずは伐ってみよう

17:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」

疑問・質問をまとめよう

17期生 -----

15:30 実技「前期講座で何を学んだか」

18:00 夕食

18期生 -----

19:00 小講義「手をかけて森を育てる」

17期生 -----

19:00 グループ討議「18期生に何を伝えられるか」

20:00 「お互いを理解する時間」

22:00 「森人大交流会」

23:00 中締め～終了

=====

2日目 7月26日(日) 引き渡すもの、受け継ぐもの

=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 実技「森づくり・事始め」
伝えること、受け継ぐこと
12:00 昼食
13:00 森人がつながる「引き継ぎの儀」
14:30 17期生 プログラム終了、解散

-----以降、18期生のみ-----

14:30 実技「森づくり・実践編」
18:00 夕食
19:00 トークセッション

=====

3日目 7月27日(月) 森と私のつながり

=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「森と人との付き合い方」
09:30 実技「森づくり・利活用編」
10:30 実技「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 森づくりのまとめ「何がどう変わったか」
13:30 KEEPとの交流
14:00 見学「森林たくみ塾」
15:00 見学「オークヴィレッジ・ショールーム」
17:00 特別講座「稲本正、環境を語る」
18:00 夕食
19:30 特別講座「NECに見る、企業のCSR活動の最前線」
20:30 自由交流会

=====

4日目 7月28日(火) 次につなげるもの

=====

07:00 起床
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 スライドショー「4日間をふり返って」
09:30 実技「ソロ～たった一人でふり返り」
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式

1日目 出会い、再開 ～環を広げる



■半年ぶりの出会い、そして初顔合わせ

週の初めから降り続く雨に、プログラムの進行を気にかける参加者の到着を待っていると、1000円高速の影響で渋滞との連絡が。想定外の事態に高速バス・自家用車組みは、軒並み30分以上の遅れが発生。のっけからタイムテーブル調整に終われる事態となりました。

どしゃ降りの雨の中、17・18期生の参加者が着々とオークヒルズ・森のレストランに到着。17期生は半年ぶりの再会をのみしめ、18期生の皆さんは新たな出会いに胸をふくらまし、北海道から沖縄まで全国から19名の参加者が集結しました。



■開校式

森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「今回の講座を通していかに環境問題を腑に落とすか。つまり頭だけの理論で終わるのではなく身体を存分に使うことによって全身で納得するということを皆さんに感じてほしい。」

この4日間の講座を通し、少しでも「知っている」ことを「知っている」ことに重ねていけるよう、とにかく身体を動かして森への理解が深まればと思います。



■実技『森づくり・導入編』（18期生）

そして実際に森の中へ入った18期生たち。森の手入れを始めるに当たってスタッフから特に詳しい説明もありません。先輩たち17期生の手入れした森を見せ、「同じように手入れをしてください」とだけ指示を出しました。例年木を伐ることに抵抗を感じる学生も多いのですが、18期生は特に抵抗もなく黙々と樹を切り始めました。中には太く健康的な樹に挑戦しようとする学生も。

そこでスタッフから「どの樹を切るのか、どうして切るのかを考えて」というアドバイス。「どう切ったらいいのか、教えてもらってないからわからない」という声も聞こえてきます。そう、私達は事前に説明を受け知識を付けてから行動に移すことが多く、まったくの白紙状態から自分で考えて行動を起こすということに慣れていないのです。





■グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』 (18期生)

森林や林業について何の知識も持たない学生が大半です。何も教えないで手入れを行なったので、経験を通じて、疑問・質問がたくさん出てきました。一人ずつ紙に書き出して、模造紙に貼り出してみました。

遠回りでも、なぜ木を切るのかを学生自ら手探りで考え、自らの腑に落としていってもらいたいものです。答えを簡単には与えない。まずは自分で考えてみることから、知識を蓄える「受け皿づくり」が始まります。



■小講義『手を掛けて森を育てる』

人が森を利用してきた経緯を、世界の歴史を縦横無尽に解説。宗教や産業革命などが、森林の利用とどうつながっているのかが見えてきた。

グループ討議を通じて自分たちで考えたあとの小講義は、まさに「受け皿」に注がれる知識です。「知りたい」という意欲があるから、博物学的で豊富な知識に溢れた講座に、みな釘付けです。



■前期講座でなにを学んだか (17期生)

半年も前のことだから、講座で得たものも薄まってしまっているかもしれませんね。前期講座のふり返りから始まります。

■18期生に何を伝えられるか (17期生)

どう伝えるかより何を伝えるか、中身が大切です。伝えたい内容がはっきりしてくれば、自ら伝わってきます。

明日の実技では、17期生が18期生に森づくりを伝えます。

■お互いを理解する時間

17期生は「(2008秋講座以降)この半年で変わったこと」、18期生は「環境に関心を持ったきっかけ」を話してもらいました。

自己紹介を兼ねるこの時間では、自分のことを理解してもらうために制限時間内で話をするのと同時に、他人のことを理解することが重要な要素です。



■森人大交流会

引き続き、多少のアルコールを交えて交流会を行ないました。はじめはお互いが分からないで躊躇していた会話も、17期生がうまくリード。あちこちから森林や環境問題について熱く語る声が聞こえてくるのが日本の未来への光のようで心強いものでした。交流会には、インタープリターとして活躍している修了生の膳くんも合流。エネルギーあふれる先輩たちとの交流に18期生は大いに刺激を受けたことでしょう。

交流会は11時で中締めとしたものの、その後も途切れることなく続いていました。普段は友だちとも真面目に話し合えない話題を深く話し合う機会を、学生たちは心行くまで楽しんでいました。

2日目 引き渡すもの、受け継ぐもの



■実技『森づくり・事始め』

今日も朝から雨に降られた一日でした。

18期生は17期生と一緒に山へ入ります。この時間、森づくりを指導するのは17期生です。まずは、危険予知トレーニング。どんな危険が潜んでいるかわからない森の中での作業は、安全確保が第一。そのためには危険予知が重要です。基本を理解した後、危険なことを探しながら森の中を歩き回ります。森の中を歩き回りながら、17期生たちが手入れした場所と、まだ手入れされていない場所の様子の違いも把握します。

その後、2グループに分かれて森づくりの基本コンセプトの説明を始めました。17期生がおこなった森の手入れのコンセプトは「光のある森」。森の前にある老人ホームを配慮しながら、景観がよく且つ健康的な森づくりを目指したそうです。

18期生がコンセプトを理解した後、森の手入れに入ります。何を大切にするかで、森づくりの基準が変わるということを17期生達は教えてくれました。





■森人がつながる『引き継ぎの儀』

楽しい時間はあっという間に過ぎ、お昼すぎには17期生とお別れをしなければなりません。

17期生は受け渡すことばとして、

「いろいろな価値観を受け入れる」

「自分なりのベストアンサーを見つける」

「とにかく楽しむ」

「答えはひとつではない」

ということを伝えてくれました。

講座後に社会人や大学院生としていろいろな分野で活躍されている先輩の姿を見て、自分たちも負けられない！という刺激を受けた18期生。きっとまたどこかでつながれるはず。



■実技『森づくり・実践編』

午後には18期生だけで再び森に戻り、自分たちで森の手入れの計画を立てます。まずはどういった森を作るのかという全体像を決めました。コンセプトは「道のある森」。歩きやすい森づくりを目指して樹を切り、枝を落としました。光が入るよう密集地帯の樹を伐り倒すと、本当に道が明るくなったことを実感できました。どういう形態の森を目指すかにより、枯れ木でさえ伐らなくてもよい場合もあるということを知りました。樹を切る意味がまさに「腑に落ちた」瞬間でした。



■小講義『日本人の自然観』

私たちが自然を考えたときのベースとしている考え方、自然観。実はそこには西洋的な価値観と東洋的な価値観が混ざり合っている。それを理解しておかないと、時としてどちらの価値観で考えているのかが曖昧になってしまう。自然を客観的に捉える「NATURE」とその訳語としての「自然(しぜん)」。自然と一体となることで自然を理解する「自然(じねん)」。その違いを、西洋と東洋の絵画・演劇などから見つけていった。



PS.

一日の体の疲れを癒す入浴タイム。今回は、日ごとに違う香りのアロマを楽しんだ。利用したのは、オークヴィレッジ代表・稲本氏を中心となって開発した、日本の森林の樹木から抽出したアロマです。この話題は、明日の稲本氏の講座へとつながります。

3日目 森と私のつながり



■小講義『森と人との付き合い方』

江戸の庶民たちは、生活の中に巧みに自然を取り入れていた。森の木は製材所で板になり、乾燥した後に製品になって暮らしの中へと入っていく。

スライドを通して森と人との付き合い方を見ながら、昨日まで体験してきた「森の手入れ」から、今日の「森の利活用」へと頭を切り替えた。



■実技『森づくり・利活用編』

実は、1～2日目に18期生たちが一生懸命木を切り倒している傍らで、スタッフは彼らが切った木をこっそりと集めていた。「この木でモノづくりをしますよ」というと、一瞬驚いた様子。

18期生たちは「道を作る目的のために、邪魔だから」、そんな視点で木を選んで伐っていたようだ。「材料になるから、役に立つから伐る」視点は皆無だったようで、自分たちが切った木が材料になることに素直に驚いていた。森の手入れ～森の利活用がようやくここにつながってきた。

丸太を鋸で30cmほどの長さに切り鉋を当てると、木目に沿って真っ二つに割れた。もう一度割ると、1cm程度の厚さの板になった。それは既に、何かを作るための材料となっていた。



■実技『森のモノづくり』

鋸と鉋を使って、各自で材料を調達するところから始めた。

刃物を恐る恐る使い始めたものの、削る楽しさに時間も忘れて夢中で作っている。作るものを初めからイメージして掛かる人、イメージが浮かばず削りながら考える人。時間が過ぎると、それぞれに作品の形が見えてきた。

「難しいものは短い時間ではできませんよ」と事前に説明したものの、スプーン作りがどれだけ難しいかを加工を始めてから実感している。時間が来て加工を終了したが、途中の人たちもみな翌朝までには形になっていた。

森で手に入れた材料とちょっとした道具とその安全な使い方を知ること、生活に必要なものは自分の手で作り出すことができる。





■森づくりのまとめ『何がどう変わったか』

このあと、KEEP スタッフに向けて何がどう変わったかを伝えます。伝える内容を考えて、紙に一言で書き表しました。



■KEEP との交流

今回初挑戦。skype を活用したテレビ電話で、KEEP のスタッフと交流の時間をもちました。18 期生には「この講座で変わった自分」を発表してもらいました。こちらの講座の様子も KEEP のスタッフに伝えることができ、学生たちが秋講座で KEEP に参加する意欲も上がったようです。



■見学『森林たくみ塾』

当講座 A コースと同じく、まずはやってみる「実践教育」を特徴とする森林たくみ塾の工房を訪問。そこで実習に取り組む、同年代の若者たちの修業風景に 18 期生は圧倒されていた。入塾翌日から、練習ではなく本物のモノづくりに関わること。知識ばかりでなく経験をつむことで、2 年間で職人としてのスタートラインに立てること。学校で「学ぶ」スタイルとは大きく違う「教育システム」に、高い関心が集まっていた。



■見学『オークヴィレッジ』

「100 年育った木で、100 年使える家具を」をスローガンにか掲げてモノづくりを行なうオークヴィレッジを訪れ、ショールームを見学した。木目を活かしたモノづくり、適材適所に木を選んで利用する目、長く使うための工法などの説明を受けると、商品を見る目が違ってきた。例えば、テーブルの裏側、抽斗の内側をじっくりと見るようになる。

自分たちが体験したモノづくりとは大きく違うが、「森の木を伐る～木でモノを作る～木のモノを使う」ことが、循環型社会の一翼を担うことが理解できただろうか。



■特別講座『稲本正、環境を語る』

オークヴィレッジ代表・稲本氏を招き、環境問題について森の資源を生かす視点から話をしていただいた。教材として使用した「心に木を育てよう」は、環境問題に関心のある人に必携の書だ。稲本氏が新事業として立ち上げた、日本の森から精油を抽出する技術は、森の手入れを進め、人と森を元気にするビジネスにもなる。



■特別講座『NEC に見る CSR 活動の最前線』

広報活動と同列で受け止められがちなCSRだが、企業が持続可能な活動を進めていく上で重要な概念です。当講座のスポンサーでもある NEC・CSR 推進本部より担当の方にお越し頂き、NECのCSR活動の取り組みを紹介していただくと同時に、CSRの考え方についても教えていただきました。目から鱗の通り、学生たちがCSRに抱いていたイメージが覆されたようです。これから就職活動を進めていく上で、学生たちにも有意義な話題でした。



■森人大交流会

みんなで過ごす最後の夜。NECの担当の方も交え、大交流会が始まりました。「この講座に応募するきっかけ」から始まり、「自民・民主どっちを支持？」など、硬いテーマまで様々なテーマについて夜遅くまで話し合いました。NECの社員が育てた米で造ったお酒、「愛酔で、笑呼(あいていで、えこ) = ITでECO」もおいしくいただきました。

「朝まで寝させないで話をするぞ」と言っていましたが、果たして何時の就寝となったのでしょうか。

4日目 次につなげるもの



■スライドショー『4 日間をふり返って』

長くて短い4日間を、スライドでふりかえります。あんなこと、こんなことが走馬灯のように駆け巡ります。



■実技『ソロ～たった一人でふり返り』

もっとみんなで居たい、もっとみんなと喋りたい。そんな気持ち強い4日目は、たった一人で過ごすことから始まります。長くて短い4日間。やりっぱなしにするのではなく、しっかりとふり返ること、そして次につなげること。そのために設けたふり返りの時間は2時間。思い思いの場所で、一人で静かにこの4日間をふり返ります。あいにくの雨でしたので、屋内で過ごしました。



■全体のふり返り

午前中に一人でふり返ったことを、みんなで共有する場です。「体験を通じて腑に落ちたこと」「悩んでいるならまずやってみることの大切さ」「人との出会いの大切さ」など、この講座を通じて感じたたくさんの言葉が溢れていました。

■閉校式

この講座を通じて学んだことをそのままにしないで実行に移すことがより重要です。実行に移すためのプランニングそして人の環づくりについての話で締めくくりました。

この講座は、単なる知識を学ぶ講座ではありません。森づくり～モノづくりまで森や木に関わる体験を通じて、自分と向き合い、仲間と交流し、気づき・発見・腑に落とすことの大切さを学んでいく講座です。

修了生の皆さんが、この講座に参加して得たものを活かして活躍することを期待しています。

A コース: オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(18 期生)の感想です。

■森の人づくり講座に参加して

僕は前向きに考える意味で「甘い人間」だなということを講座中に強く感じていた。それは自分以外の皆のさまざまな意見や姿勢を見て圧倒された自分が居たからである。この講座に参加する前は、こんなすばらしい施設やスタッフの方々や各々の目的意識の強い同期や 17 期生の方々がいるとは思っていなかった。すごくよい意味で刺激をもらったし、自分を見直すとてもよい機会となった。

私はこの講座を知ったときに、少し興味あるけど受けようかどうか迷っていました。でも、やっぱり少しでも興味があるものは何でも首を突っ込むほうがよいと思っていたので、勇気を出して応募しました。最初は不安もたくさんあったけど、交流会などで話しているうちにすぐに打ち解けられました。学校の勉強とはまた違った感じがしてとても面白かったし、自分のためにもなりました。

私は「体験」を敬遠していました。ただやってみて終わるというイメージが強く、効率を重視した考え方や知識ばかりを蓄えていました。けれど今回この講座に参加し、「体感すること」の重要性に気が付きました。頭で知ることと、体で知るとは違い、両方知ってこそより深い理解を得られる。言葉だけでは伝えられない。この感覚を持ち続け、今後とも積極的に体感を求めて行きたいと思います。またそれを伝えていきたいです。

この講座を通し、「正解はひとつではない」ということを学びました。それは、森に関していえば里山の手入れの仕方は利用する人によって違ってよいということであり、人に関していえばある問題に対しての意見は人それぞれに異なるということです。今回、自分の意見を人に伝える機会が多くあったことで、自分がいかに「伝える」という行為を軽視していたかを感じました。伝えないとつながらないのだと気づかせてもらいました。

「森をどうしていくか？」この問いかけに対し、「答えはひとつではない」といえる自分がいる。それは、森と人・人と人がそのつながりを感じ、対話していくことで、答えが見つかりそうにない問題に対して「私たちの答え」を導く体験ができたからだ。これさえあれば、答えのない問題とも正面から向き合えることができる気がする。そんな体験の機会を与えてくれたこの講座と、そこで出会えたすべての人々に感謝したい。

森の人づくり講座に参加して、さまざまな人々と出会い、森をつくるということを通して、たくさんのことを学びました。この体験を通して、考える方向、何かを成し遂げる方法はひとつではなく、何がしたいのかという目的がはっきりしていれば自分の役割が自ずと見えてくるのだと実感しました。また、この先大きな問題や物事に直面したとしても、自分の意見を仲間と共有し、納得して行動することで解決することができるのだと勇気がもてました。

小学校教諭になるため、二度目の大学入学を果たし、現在教育現場で働きながら学生生活を送っている。森に入る中で「ひとつの問いに対して出るひとつの答え」という考え方に如何にとらわれているかを知った。効率・スピード・生産性。その考え方は確実に教育現場にも深く根付いている。森づくりと人づくり。私の中で二つの点がこの講座でつながった。二つの視点でひとつではない答えを求めていきたい。

この講座を通して自分の本来の目標を改めて自覚し、それと同時に人付き合いや今後の自分の動きに対する不安にも解決の糸口に気づくことができました。同じ意気込みを持つ人々との交流や森林について実践の学習から、今までの自分の既成概念や諦めを打破するきっかけを得ました。名野で、今後もこの講座をいちどきりのものでなく、得たものを忘れずに人とのつながりや目標に自ら手を伸ばして実行していきたいと思います。

プログラム紹介

B コース : キープ・フォレスターズスクール
場所 : 山梨県北杜市清里町
日時 : 2008年11月22日～11月26日

講座のねらい

自分なりの言葉で「環境教育」について話せるようになる
自分の中の「小さな一歩」を踏み出すきっかけをつかむ
全国の仲間とのネットワークを作る
自分自身のねらいを達成する

そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと
お互いから学ぶこと
楽しみながら学ぶこと

プログラム進行表

=====

第1日目 7月11日(土)

テーマ: *出会う*

=====

12:00	17期生	受付開始
12:30	17期生	講座の準備:ふりかえりと目標の設定
13:00	17期生	実習:環境教育プログラム実施の準備
14:00	18期生	受付開始
14:30		開講式 / オリエンテーション
15:00		簡単アイスブレイク
	17期生	環境教育プログラムの実施
	18期生	環境教育プログラムの体験
16:45		休憩
17:00	17期生	プログラム実施のふりかえりとわかちあい
	18期生	講義:環境教育概論
18:00		夕食
19:15		目的の共有化 & 自己紹介
20:00		1日を整理する時間
20:15		自由交流会

=====

第2日目 7月12日(日)

テーマ:つなぐ

=====

07:00 **18期生** 環境教育プログラムの体験 ガイドウォーク

08:00 朝食

09:15 **全員** 実習:環境教育プログラムの体験

11:00 休憩

11:15 インタープリテーション概論

12:00 昼食

13:15 17期生クロージング

14:15 17期生お見送り、休憩

~~~~~これより、18期生のみ~~~~~

15:30 実習&講義:体験学習方概論

17:00 実習&講義:安全管理

18:00 夕食

19:15 環境教育プログラムの体験:ナイトハイク

20:15 1日を整理する時間

=====

第3日目 7月13日(月)

テーマ:伝える

=====

08:00 朝食

09:15 環境教育プログラム実施&相互評価のオリエンテーション

09:45 環境教育プログラム実施の準備

11:30 昼食

12:45 インタープリテーション体験実施&相互評価

15:15 休憩

15:45 インタープリテーション体験実施のふりかえりとわかちあい

16:45 講義:インタープリテーション

17:15 講義:企業のCSR活動

18:00 1日を整理する時間

18:30 夕食

20:00 自由交流会



=====  
第4日目 7月14日(水)

テーマ:ふりかえる  
=====

08:00 朝食

09:15 補いの講義、質疑応答

09:45 講義のふりかえりとわかちあい

11:00 TV会議準備

11:30 TV会議

12:00 昼食

13:15 18期生クロージング

13:45 終了、解散

## 1日目: 出会う



### ■開講式・オリエンテーション

ひと足早く17期生が到着し、昨年の前期講座で行なったことや感じたことをふりかえった。そして、みんなで18期生に行なう環境教育プログラムのねらいを確認しあい、準備にとりかかった。その後、18期生も合流し、今回の参加者19名が揃って開講式が行なわれた。



### ■環境教育プログラムの実施(17期生) / 体験(18期生)

外に出て、みんなで自己紹介ゲームを行なった。17期生の雰囲気には助けられ、18期生の緊張も和らいでいった。そして、お互いを知り、心も身体もほぐれた後は、17期生から18期生へのプログラムの実施。17期生からは「緊張してきた」という声が聞こえてきたが、緊張しながらも、自分達で考えたプログラムを実施することに楽しさを感じている様子だった。18期生も、そんな17期生の姿を見ながら、プログラムを楽しんでいた。



### ■プログラム実施のふりかえりとわかちあい(17期生)

部屋に戻り、17期生は、プログラムを実施してみでの感想・体験してみでの感想を共有した。反省点や改善点も挙げられ、有意義な時間となった。また、フィードバックをもらったことで、プログラムを実施するための新たな視点に気づいた様子だった。



### ■講義: 環境教育概論 (18期生)

この時間、18期生は「環境教育とは何か」ということを学んだ。グループに分かれて話し合う時間もあり、18期生からも様々な考えが挙げられた。そして、さまざまな環境問題を解決するために、環境教育のアプローチの方法も多岐に渡るということを知った。自分なりの「環境教育」を考えるキッカケになったようだった。





#### ■目的の共有化・自己紹介

自分のキーワードを3つ挙げて自己紹介。そして、この講座にかける思いや目的を一人ひとり発表した。

みんなの声に耳を傾けながら、それぞれがこの講座に期待を膨らませている様子だった。

## 2日目:つなぐ



#### ■実習:ガイドウォーク

朝のガイドウォーク。前日遅くまで語り合っていたためか、眠たそうな目をこすりながら集まってきた。体と心をほぐした後、朝の森に出かけていった。木のブランコで遊んだり、葉っぱの香りを感じたりしているうちに、眠っていたみんなの体も五感も目覚めてきた。50分ほど朝の森を散策し、気持ち良く1日が始まった。



#### ■実習:環境教育プログラムの体験

この時間は、みんな一緒にレンジャーによる環境教育プログラムを体験した。森の中で“森人”を探したり、グループで「1本の木を愛でる詩」を作ったりした。お互いの感性に刺激を受けながら、まさに「体験から、お互いに、楽しみながら」学んでいた。

#### ■今後に向けて(17期生)

##### /インタープリテーション概論(18期生)

この時間、17期生は今後に向けて、自らの今の課題をふりかえった。自分の課題を見つめる時間をもてたことで“それに向けて何ができるのか”が明確になり、心の中のもやもやが小さくなったようだった。

そして18期生は、「インタープリテーションとは」という基本的な考え方を学んだ。実際に体験したプログラムを例に考えることで、インタープリターの役割、伝え方がはっきりとイメージできた様子だった。





#### ■17期生クロージング

「今の気持ち」「17期生 18期生へ、18期生 17期生へのメッセージ」をクリップボードに書いて見せ合った。そして、17期生は「大事にしたいキーワード」を一人ひとり発表した。前期、後期を通して、体験から、そして仲間から学ぶことの多かった17期生。それぞれが、それぞれの思いを胸に、旅立っていった。

#### ■実習 & 講義: 体験学習法概論 & 安全管理

18期だけになって、初めての活動。体験学習法、安全管理に関する講義を受けた。インタープリターに必要な条件を考えたり、自分達のコミュニケーションをふり返ったりしながら、プログラムを組み立てるときにも、“プロセス”を意識することの大切さを体験から学んだ。そして、プログラムを考へるとき、忘れてならないのが安全管理。起こりそうな危険を予測すること、そしてそれを共有することの大切さ知った。



#### ■環境教育プログラムの体験: ナイトハイク

夜の森へ出かける「ナイトハイク」を体験した。

森でのアクティビティ「キツネとネズミ」を体験した後、草原に寝転がり、夜空の下で「ソロ」の時間を味わった。感性がひらく夜。昼間とは違った雰囲気の中、それぞれが自然のことだけでなく、プログラムのこと、自分自身のことなどをみつめる時間となったようだった。



## 3日目:伝える



### ■実習:インタープリテーション体験実施&相互評価

18期生もいよいよ、自分たちでプログラムを考えて実施するときがきた。まず、実施するペア決めた。その後は、実際にフィールドに行き、"何を伝えたいか"、"何をしたいか"のすりあわせをした。困ったときは、スタッフの設置した「相談所」に駆け込んだ。プログラムが始まると、緊張しながらも、企画者たち自身が楽しんでいる様子が伝わってきた。また、フィードバックをもらうことで気づいたこと、実際に行なってみて気づいたこともあったようだった。行なったものを見直すということは、とても重要な要素であることを、身をもって感じる事ができた。



### ■講義:インタープリテーション

プログラムを実施した後は、インタープリテーションについての講義を受けた。インタープリテーションを考えたときの流れ、人のことや使う材料のことを理解することの重要性、さらに、体験学習法の循環過程を学んだ。プログラムを実際に行なった後で聴く講義は、実感がまざり、学びの多いものとなった。



### ■講義:企業のCSR活動

本講座を開催する機会を与えてくださった NEC から、山辺さんをお迎えして CSR 活動のお話を伺った。NEC が行なっている活動の紹介だけでなく、企業理念、社会貢献活動を行なうにあたっての考え方などを教えていただいた。また、直接お話を伺えたことで、活動への強い思いを感じることができた。

### ■自由交流会

最後の夜は、外で焚き火を囲みながらの交流会。プログラムを終えた達成感と、みんなと過ごす夜ということもあり、みんなのテンションは最高潮。マシュマロを焼いたり、星を眺めたり。時間が過ぎるのも忘れ、みんなで遅くまで語り合った。



## 4日目:ふりかえる



### ■補いの講義、質疑応答

学んだことを整理する時間。そして、疑問を残さないための質疑応答の時間となった。「ジョハリの窓」についても学び、フィードバックの大切さを改めて知ることができた。そして、誰もがインタープリターの役割を果たすことができるということ学んだ。



### ■TV 会議

今回初の試みである、テレビ会議。もう1つの開催場所である、オークヴィレッジの小木曾さんに、「この講座で感じたこと」を一人ひとり発表。どこを見て話していいのかわからず戸惑いながらも、それぞれ思いを語った。そんなみんなの顔は、自信に満ち溢れていた。



### ■講座のふりかえりとわかちあい

出会いから今まで過ごした時間を、スライドショーでふりかえった。その後、この4日間で得られたもの、これからしていきたいことなどを、ひとりになって書いた後、その思いをみんなで共有した。長いようであつという間だった4日間。みんなで行なった一つひとつの活動を思い出しながら、それぞれの思いに耳を傾けていた。



### ■18 期生クロージング

いよいよみんなで過ごす、最後の時間。一人ひとり、「自分が今、大切にしたいこと」を発表した。「学生」という共通点はあったが、10人がそれぞれ個性的で、まさに“十人十色”であった。お互いにその違いを認め、刺激を受けながら成長してきた4日間。別れを惜しみながらも、再会を約束し、それぞれ旅立っていった。

## Bコース: キープ・フォレスターズスクール受講生(18期生)の感想です。

■今回の講座で学んだことは南ですか？そして講座の体験を踏まえ、これからあなたは環境教育活動にどのような形で関わっていこうと考えていますか？

私は企業で働きながら、自由になる範囲内で環境教育に関わりたいと考えています。そして環境教育においては、「人と人がつながることが出来る場を作る」ことを重視したいと考えています。

具体的には自然に親しむ機会を提供すること、またその機会作りそのものを通じて、人がつながれる場を作りたい。そしてその場が人を元気にしたり、自分の存在価値を確認できたり、生きていることに楽しみを見つけたりできるような場にしたい。これが、私が目指す環境教育です。将来的には企業としてそのような場作りに貢献できればと考えています。そのためにも無理をせず、出来る範囲から、少しずつ粘り強く環境教育に関わり続けます。積極的に環境教育に関わっている団体に顔を出して、活動に参加していくこと。そして環境教育に関わっている知り合いを増やすこと。この二つを実行します。

この講座に申し込みをすることは、私にとってとても勇気のいる行動でした。普段慣れ親しんだ自分の殻から出ることができず、何か新しいことを始めたり新しく人と出会うことに億劫になっていた私にとって、新しい一歩を踏み出すきっかけが、この講座でした。「これを機に変わりたい」という気持ちを強く持って参加したように思います。この4日間は大袈裟ではなく、今までで一番刺激があり成長した4日間でした。森とのふれあいはもちろんのこと、それぞれ違う視点や考えをもった仲間の多様性を吸収し、それによる自分の気持ちを観察することは、「私」という人間を知る、最高の時間でした。

私はこの講座をきっかけに、環境教育活動にまた参加してみようと考えています。しかし、環境教育活動だけに限らず、いろいろな視点で自然に向き合いたいです。新しい一歩を踏み出すことに億劫にならず、水をぐんぐん吸い込む土のように、吸収しつづけたいです。まずは「知る」ことから始めていくことを目標にします。

この講座には、主にもっと自然を身近に考えてみたいという理由で参加しましたが、実際は自然そのものの勉強よりも、他の受講者たちの自然に対する考え方などを知るいい機会でした。ただそうやって自然に接しながら周りの意見を聞いていると、他の人達との考え方の違いがよく見えた気がしました。インタープリターでは、自分では全く想像しなかった答えが返ってきたり、何度か話して自然に対する考え方の違い、少し言いすぎなんじゃないかと思った人の口から、自分でも考えたことがあるような考えが出てきたりして、その人にとってはそれが普通の考えなんだなと思ったり共感できる考えがあったりで面白かったです。

ただ意見交換という意味では、自分は一番うまくいっていませんでした。せっかくの場なのだからもう少し自分から話せるようにならないと駄目だと思いました。

この講座は森のことだけでなく、全ての関係につながっている土台を学べる貴重な講座である。本当は感じていたけど切り捨てている部分を、この講座を通じてお互いに大事にしあえたことで、心の充電ができた。余裕が生まれ、お互いの感じ方の違いを興味深く、新鮮に、敬意を持って受け入れることが出来た。

また、知識の面でも、今回の講座で、森と接点を持つ方法や、プログラムの作成方法、伝え方など有意義なものをたくさん学べたと思う。木は好きだけど、その次どうやってその好きを深めたら良いのかわからなかった私にとって、環境、自然関連の活動をしている人たちと接することが出来たのは本当に貴重で、これからの人生の土台づくりの第一歩となるだろう。

最初は日本の環境教育を体験したいという気持ちと、仲間との交流ができればいいかなーと思った。ところが、その講座を通してそれ以上の充実感があった気がする。企画するのも伝えるのも大変苦労したが、実際に環境教育プログラムを企画し、実習までやったからです。

教わったことを挙げると、まず、土・木・葉っぱなどの大切さを感じたことである。私自身、東京で生活する時間が増え、土・森などと接触する機会も、その大切さに目を向ける時間さえも少なくなっていたに違いない。静かな森の中でその大切さを感じることができた。小さな葉っぱの魅力を考えながら、自信感をなくしている自分に改めて自分の魅力を考える時間になった。もう一つは、同期生との交流を深めたことである。夜遅くまで率直に話し合い、そしてプログラムの中でお互いに励まし合っていたことは忘れない思い出になっている。

特に収穫があったのはやはり、インタープリター実施体験であった。自分が想像していた以上に肯定的なフィードバックをもらえ、自分のスタイルの一つとして自信を得ることができた。また、こういった場でストレートな意見をくれる仲間巡り合えたことも、大きな収穫であったと感じられる。

自分は、自然との共生に根ざした地域コミュニティ作りもしくは再生を、環境を観点にした専門家の立場からアプローチしていきたいと考えている。人と自然をつないでいくため、人と人をつないでいくためにも、環境教育の手法は様々な形で必要となってくると考えられる。野生動物管理、過疎化による里山崩壊の最前線で、今回学んだこと、得た多くのものを活かしていきたいと考えている。その結果、自然との共生に根ざしたコミュニティの形成により、人にも、野生生物にとっても住みよい環境を作ることに貢献してあげたいと考えている。

今回の講座から学んだことは「素直さ」である。ありがとうと言ったり、いいところを探したり、素直になることは幸せになれると思った。素直に受け入れ素直に表現することは、いろんな経験をするにつれゆがんでしまう。固定観念という色眼鏡で物事を見て、周りを気にして表現することを制御してしまう。年をとればとるほどそういうものだと思っていた。だけどみんなと交流するうちに色眼鏡は悪いものではなく、逆にあるから面白いのだと思えるようになった。アクティビティを通して一人ひとりが違う感じ方をして違う表現の仕方をしていることがよくわかった。素直に受け入れ表現すること、ありのままの自分を表現すること、それこそが個性なのだ改めて感じることができた。

みんな素直さを忘れていて人とのいい関係作りができないし、自然環境に配慮ができないし、病気になってしまったりする。もっと自分の心を見つめれば関係も環境ももっとよくなるのではないかなと思う。素直に生きること、それを伝えられる人になりたい。まずは自分がそうなること、そして身近な人から伝えていきたい。自分の身の回りから一步一步幸せを広げていく環境教育活動にしたい。



この講座をふりかえって強く感じることは、とてもゆったりした時間の中に、すばらしく効率の良い過程が盛り込まれていたということです。アイスブレイキングから始まり、導入があって、意見を出しあい、ディスカッションがあって最後に必ず感想などのまとめがあり、この中でどんどん自分の考えがまとまっていき、自分という人間にもいろんな面があることを学びました。そして、他者との関わり方、人の意見を聞く面白さ、そして同じ志をもつ仲間ができる喜びも学びました。環境教育とは、ただ自然を学び自然環境の尊さを伝えるだけでなく、人間の内面の豊かさを教えることでもあると感じました。いつも森を科学の観点からしか見ることのなかった私には、森を「心で見ると」面白さには驚かされました。

今回の講座で環境教育と出会いやっとスタート地点に立てたところですが、自分の専門性を生かし、森林や生物多様性の重要性に加え、「心」を伝えられる人間になりたいと思っています。

人はそれぞれ異なるメガネを持っており、違う世界を見ていると考えることができます。そうしたことを実感することが、多々ありました。他の人が見る世界を、自然を使ったインタープリテーションを通して見ることができました。互いに見ている世界が違うことを知り、認め合うことの大切さを、自然を通してすんなり受け入れることができるように思います。自然自身の大切さや魅力を伝えるだけでなく人同士のつながりや関わりを作り、大切さを知ってもらうこともインタープリターとして大切だと感じました。

来年の春から就職となります。直接、環境教育活動ができる職には就かないのですが、NPOに参加していきたいと考えております。そして自分自身が自然を楽しむことを忘れないよう過ごしたいと考えています。そしてNPO活動以外にも身近な人であるとかに伝えていくことで環境教育活動と関わっていきたいと考えています。